

2001年4月15日にJR常磐線の下り線仮設線へと切り換えられ、古い土の土手と駅舎が撤去され、明治の職人が作り上げたレンガ積の壁が表われて美しい模様を見せてくれています。江戸幕府から明治政府へと変り、欧米の列強に負けじと一目散に駆け進んだ遺産です。明治29年（1896）12月25日に南千住駅が開通し、常磐線は日暮里が起点で仙台の手前の岩沼が終点となっています。

明治14年11月に日本国有鉄道株式会社が設立され、同16年7月に上野駅が開通、日暮里駅が同

38年4月、三河島駅も同年に開通しました。これを見ても、いかに南千住が、早くから開け、交通の要であったかを証明していますね。この鉄道も明治39年鉄道

国有法の成立で国有鉄道となり、戦後42年経ち、昭和62年（1987）に民営化へと移り変わって行きました。明治15年

鉄道馬車制度が江戸時代の伝馬制度に変わって出来上がり、コツ通りにも浅草から北千住間を走り商店街中央（今のとんかつの松竹さんの隣）に停車場（駅車場）があり、かなりの賑わいを見せていました。

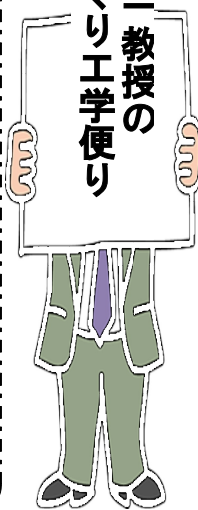
しかし、明治43年東京市街電車の延長が著しく、今の都バスの車庫（江戸時代の首切り場）まで延びて来ましたが、乗合馬車は南千住の踏み切りから北千住の駅前までに短縮され、それも北千住まで市電が行くようになり廃止となってしまいました。

ちなみに大正10年（1921）には千住南には馬力の馬方が130人もいて、夜明け前から街へ出る馬力がガラガラと音を立て、2kmも続いたそうです。

2001年5月発行の原稿を再掲載致しました。

☆六郎が語る☆  
南千住一口話  
特別編 第10回

吉田喜一教授の  
ものづくり工学便り



早乙女勝元『美しい橋』

産技高専名誉教授 吉田喜一

『美しい橋』は白髭橋のことです。勝元さんの初の小説のようです。それにしても完成度の高い、1977（昭和52）年の純愛小説です。のちにTBSの東芝日曜劇場で放送されました。

巻末の『自叙伝』に、『隅田川べりの鉄工場での大型の平削盤にしがみついていた時も、時期がちょうど冬だったせいか、…このハンドルを通して鋼鉄の機械に吸い込まれてしまうような、そんな気がしてならなかった…』と書かれています。

南千住のガスタंकもできてきます。勤務時間が全然違う、若い男女が白髭橋の締結ボルトに、ラブレターを交換し合います。町工場の男性は南千住側、女性は墨田区側（イメージ的にはセイコーの工場）です。メールやインターネット時代の今の若者にはちよつとわからないかもしれませ

商店街のこれからのため



消費生活  
アドバイザー  
佐藤祐一郎

こんにちは、メガネのサトウ4代目です。当店前の「東京都道464号 言問橋南千住線」（旧・奥州街道、通称・コツ通り）は、近年、電線地中化や歩道の改修、街路樹（はなもも）の植栽などで美観が向上しました。一方で、道路に面して商店街を形成していた店は、その多くが閉店し、往時の賑わいが失われて久しい状態です。これまで役員の方々の努力によって続けられてきた商店会活動も、コロナ禍が追い打ちをかけるように、いよいよ終焉を迎えつつある状況になりました。

大型専門店・ショッピングモールやネット通販の台頭といった商業環境の変化、住民の世帯構成や就業形態の変化、商店主の高齢化や後継者難などの事情、土地利用の変遷や都市再開発の進展、今般のコロナ禍…、これら様々な「時代の変化」への対応力が、個々のお店にも、組織としての商店会活動にも問われていると感じます。そのような今、変わりゆく地域コミュニティの中で商店街の価値や可能性を見直してみたいという声や、荒川区内共通お買物券をお持ちの皆さまが今後も利用できるように商店会は存続させたいという意見が私の周りで出ています。地域に果たしてきた役割や、果たせなかった課題を振り返りつつ、当店や商店会がこれから先も地域の役に立ち、必要とされるよう、「自分は何をすべきか？何かできることはないか？」常に問題意識を持って取り組んで参りたいと思います。応援して下さい。皆さまの声が何よりの励みになります。

【ワクチン接種について】当店3代目・4代目共に、新型コロナウイルスの2回接種を受けております。今後もし引き続き、感染リスクの恐れがある行動を避け、店内環境を整えて、皆さまに安心してご来店・ご利用頂けるよう努めて参ります。

■メガネのサトウ ■ <https://megane-sato.com>  
南千住5の43の13【東京新聞並び】  
TEL 03（3806）4930

★休業日のご案内★

9月～10月 ……毎週火曜日は、休業日です。

★営業時間のご案内★

平日（月～金）…午前9時～午後6時30分

土休日…午前10時～午後5時